



さいばいニュース

Vol.117

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

TEL 046 (882)6980

FAX 046 (881)2233



ホームページ



新年のご挨拶

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

理事長 高橋 征人

新年あけましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症は対応策が5類から2類にインフルエンザと同じとなりました。しかし相変わらず変異株が出て、終息の兆しが見えません。社会活動と世界情勢はコロナ前とコロナ後は大きな変化がありました。ウクライナへのロシアの侵略、イスラエルとパレスチナガザ地区戦争、石油価格の高騰、福島第一原子力発電所のアルプス処理水の海洋放出による中国の水産物輸入禁止措置、円安など漁業界にとって障害が続きからつぎへとでていきます。

海の環境も昨年夏の異常気象があり、サンマ、サケの不漁、北海道でブリが大漁、日本海でのサワラの大漁、神奈川県ではキハダマグロが西湘の定置網に例年になく漁獲されました。黒潮の大蛇行が5年以上つづいているなど、漁業経営は引き続き厳しい状況がつづいています。このような状況の変化が大きい中で漁業を続けていくには、昔からの暦にとらわれず、対応策を変えていくことが求められています。漁獲される種類、漁獲量の変動幅が大きい中、その変化に順応していく体制を整えておく必要があります。

栽培漁業協会も時代の変化で、ノリやアサリなどを食害するクロダイの放流を止めました。これからは栽培対象種も資源管理の時代に入ります。海の環境で栽培対象種をより合理的に持続的に漁獲できるように、資源評価の結果に基づいて、合理的な放流を続けていく予定です。

今年も皆様の健康とご多幸、大漁を祈願して、新年のあいさつとします。



令和5年度 種苗放流事業

令和5年度の種苗放流事業および種苗供給事業は、マダイ・ヒラメ・メバル・カサゴ・トラフグ・カワハギ・マコガレイ・クロダイ・アワビ・サザエ・トコブシを行いました。そのうちのマダイ放流事業について、放流場所・放流尾数等を紹介します。

マダイ

令和5年度のマダイ放流事業は、東京湾と相模湾で行われました。

2023年7月14日の久里浜から7月21日の小田原までの14ヶ所で行い、早朝、当協会のマダイ稚魚飼育水槽から取り上げ、活魚トラックで各港まで運び、久里浜以外は直接ホースで海へ放流しました。久里浜では遊漁船に積み替えて、久里浜の沖合いにある漁場へと運び放流しました。

各港での放流尾数は、久里浜6万尾、金沢8万尾、松輪7.2万尾、大楠2.1万尾、大磯1.8万尾、平塚2万尾、茅ヶ崎2.8万尾、江の島片瀬2万6350尾、腰越2.3万尾、葉山2.4万尾、福浦1.8万尾、真鶴1.8万尾、岩1.5万尾、小田原2.7万尾で、合計45万350尾でした。そのうち、当協会のマダイ種苗 放流事業分は15万



ホースによる岸壁放流

尾、一昨年度にマダイ釣人・釣船協力金分は9万尾、一般社団法人日本釣用品工業会が東京湾に9.5万尾、公益財団法人相模湾水産振興事業団が相模湾に7万尾、一般財団法人東京湾南部水産振興事業団が久里浜に2.5万尾、一般財団法人横須賀西部水産振興事業団が大楠に8千尾・葉山に4千尾、江の島片瀬漁協が8,350尾を放流しました。その他、7月28日に城ヶ島岸壁より5万尾放流しました。

今年のマダイ稚魚は、生産開始時の水温が低かったために初期の成長が遅く、放流サイズに達するかどうか心配されましたが、後半に成長が追いつき、形の綺麗な良い種苗に育ちました。

城ヶ島での岸壁放流では、放流後の稚魚たちがしばらく岸壁近くに居つき、成長していることも確認することができました。放流後の生残数を少しでも多くするため、今後もより良い種苗を適地に放流していきます。



あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

東京湾遊漁船業協同組合

理事長 中山 賢

〒140-0013

東京都品川区南大井一、一九、一六

TEL 〇三、六四三三、一〇九一

FAX 〇三、六四三三、一〇九七

相模湾遊漁問題

対話推進協議会

会長 久保田 源太郎

〒250-0021

小田原市早川一、一〇、一

TEL 〇四六五、二二、五九八九

FAX 〇四六五、二二、五五二四

相模湾水産振興事業団

理事長 武井 正

〒250-0021

小田原市早川一、一〇、一

TEL 〇四六五、二二、五九八九

FAX 〇四六五、二二、五五二四

森を育て、海・川をきれいにしましょう
小さな魚は海へかえしましょう
公益財団法人

表彰おめでとうございます

令和5年度神奈川県県民功労者

葉山一郎氏



(藤沢市漁業協同組合代表理事組合長
公益財団法人神奈川県栽培漁業協会理事)

多年漁業に携わるとともに、藤沢市漁業協同組合代表理事組合長のほか、神奈川県漁業協同組合連合会理事等を歴任し、組織の充実強化と漁業経営の安定化に優れた成果をあげるなど、漁業の振興・発展に尽くされました。近年では、「育てる漁業」としてハマグリの子苗放流に尽力し、増えた「湘南はまぐり」は「かながわブランド」に認定されました。

令和5年度大日本水産会水産功績者

今井利為氏



(公益財団法人神奈川県栽培漁業協会専務理事)

永年にわたって県職員として栽培漁業の推進に精励し、マダイの栽培漁業においては市場調査や遊漁釣獲調査等の導入による種苗放流効果の解明、全国に先駆けた釣り人協力金制度の導入による栽培漁業の効率的な展開や、受益者負担による種苗放流体制の構築に寄与されました。近年では栽培漁業対象種の見直しや、他県への種苗の販路拡大など財務健全化に努めるほか、サザエ種苗生産安定化技術の確立や、アワビ種苗生産不安定化の解明を行うなど、県下沿岸漁業の振興・発展に寄与されました。

横浜ゴム・KTグループから寄付金



横浜ゴム株式会社より、昨年に引き続き活動支援金として100万円が寄付され、今回は平塚市漁協において7月にヒラメ放流および地元小学生によるヒラメ放流体験を行いました。



漁業者、県職員、栽培協会に加えて横浜ゴム社員も参加して放流を実施

地元小学生と共に、横浜ゴムの山石社長・宮本常務、落合平塚市長、平塚市漁協の田中組合長も放流に参加



KTグループより、今年度も寄付をいただきました。この寄付は平成27年から行われ、今年で9年目になります。(KTグループは、神奈川トヨタ自動車株式会社から機能分割されたグループ会社で、2023年6月現在13社で構成されています。)この寄付は平成27年から行われ、今年で9年目になります。

10月に上野会長と神奈川トヨタ商事株式会社の黒木社長が来所され、贈呈式を行いました。



左から黒木社長、当協会今井専務理事、上野会長

遺産寄付について

地球の環境は現在大きく変化しています。環境の変化に対して生物の分布、多様性など変わり水産生物の漁獲が変わっています。神奈川県栽培漁業協会は、環境変化の中で、高度経済成長期に失った藻場、干潟で幼稚仔時代を過ごす必要のあった生物を陸上の池で人間が受精卵から生物が自立して生きていくことができるマダイ、アワビ、サザエ、トコブシの種苗生産事業をおこなっています。また、ヒラメ、カサゴ、カワハギ、メバルなどの稚魚を他県から入手し、漁業関係団体や遊漁関係団体に斡旋をしています。しかし近年、電気代や飼料等の値上がりで経営は非常に苦しい状況が続いています。

さいばいニュースやホームページの読者の方で、遺産を栽培漁業のためにご寄付していただく人はいらっしゃいませんか。私たちの活動に賛同していただく方がおられましたら、(公財)神奈川県栽培漁業協会電話 046-882-6980、メール info@kanagawa-sfa.or.jp に一報をくださるようお願いします。

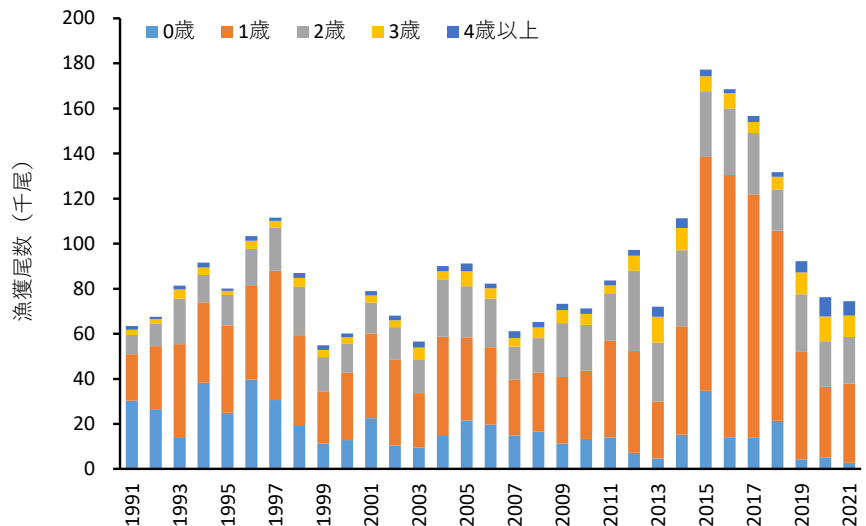
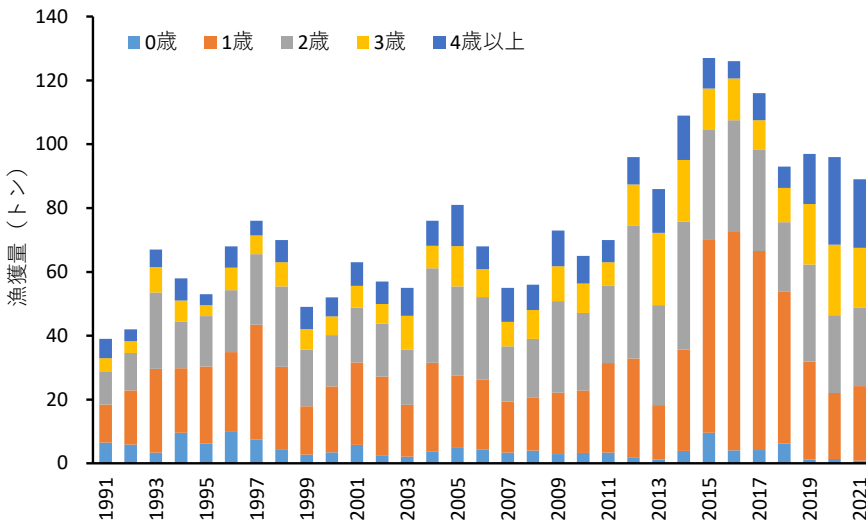


あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

<p>神奈川県しらす船曳網 漁業連絡協議会</p> <p>会長 浜野 暁夫</p> <p>〒251-0005 藤沢市片瀬海岸二丁目二〇-二五 TEL 〇四六六-二二-四六七 FAX 〇四六六-二二-四六七</p>	<p>一般財団法人 東京湾南部水産振興事業団</p> <p>代表理事 山下 克範</p> <p>〒2509-0831 横須賀市久里浜八一九一五 TEL 〇四六-八三四-三五九六 FAX 〇四六-八三四-三六九〇</p>	<p>一般社団法人 神奈川県漁業無線協会</p> <p>会長理事 小山 恭弘</p> <p>〒238-0232 三浦市晴海町一七三浦水産合同庁舎 TEL 〇四六-八八二-二七八四 FAX 〇四六-八八二-二五一一</p>	<p>日本漁船保険組合 神奈川県支所</p> <p>運営委員長 鈴木 清</p> <p>〒236-0051 横浜市金沢区富岡東一-二二 TEL 〇四五-七七二-七三〇一 FAX 〇四五-七七八-三九二〇</p>	<p>神奈川県漁業協同組合連合会</p> <p>代表理事会長 高橋 征人</p> <p>〒236-0051 横浜市金沢区富岡東一-二二 TEL 〇四五-七七三-六七七七</p>	<p>公益社団法人 全国豊かな海づくり推進協会</p> <p>会長 坂本 雅信</p> <p>〒103-0001 東京都中央区日本橋堀留町二-二八 日本橋フジタビル四階 TEL 〇三-五六五-一三五〇一 FAX 〇三-五六五-一三五〇二</p>
--	---	--	---	--	--

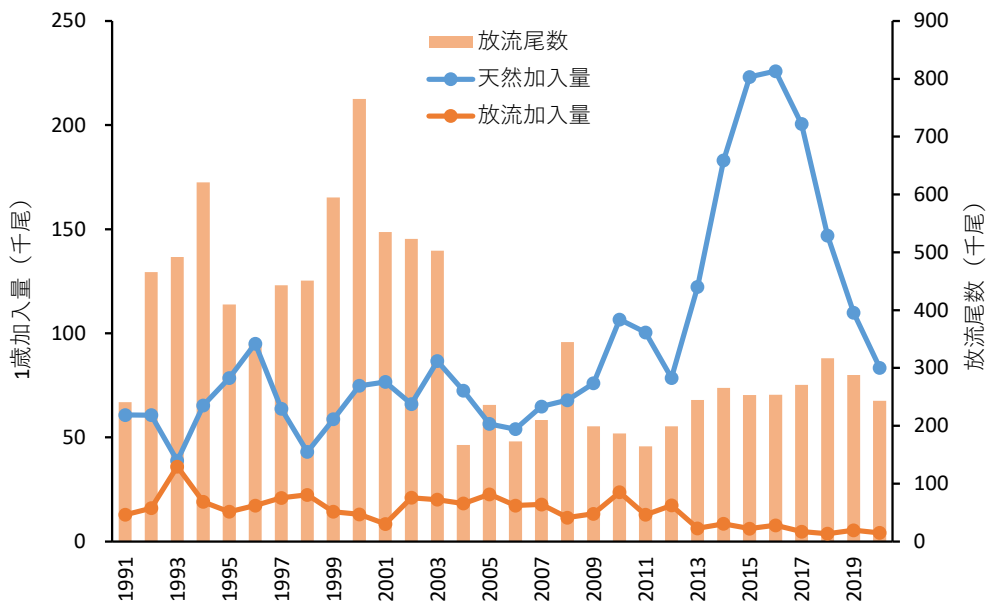
《寄稿》近年におけるヒラメの減少について

神奈川県水産技術センター 加藤大棋



最近ヒラメが獲れないという話を相模湾の漁業者や市場関係者からよく聞きます。また私自身、市場調査をしていて、測定するヒラメが少ないと実感しています。そこで、1991～2021年の漁獲量をはじめとしたデータを分析し、実際にヒラメが減少しているのか検証しました。図1に本県のヒラメ漁獲量および漁獲尾数を年齢別に示しました。漁獲量と漁獲尾数ともに2015年頃に急増しましたが、その後は特に漁獲尾数が大きく減少に転じ、2021年では2013年以前と同程度になりました。年齢の内訳を見ると、0～1歳は漁獲量と漁獲尾数ともに減少していることが見て取れます。一方、2歳以上は漁獲量と漁獲尾数ともに大きな変化は見られません。これらの結果から、近年は0～1歳の漁獲尾数が減少しており、そのことがヒラメ減少の実感につながっていると推察されます。

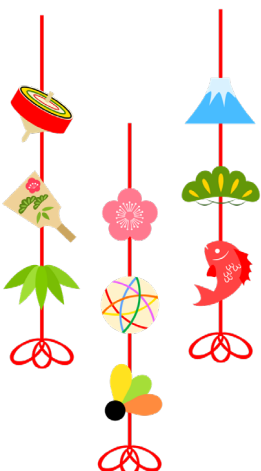
本県では種苗放流をしていますので、天然由来と放流由来の加入量と放流尾数の年推移を調べました(図2)。加入量とは、漁獲できる大きさに育った若齢魚の量のことで、ここでは1歳の資源尾数としました。なお、資源尾数は漁獲尾数と年齢組成を元にした資源量計算によって推定することができます。天然由来の加入量は2013～15年にかけて急増し、その後2020年にかけて急減して以前の水準と同程度になりました。一方、放流由来の加入量は天然由来より低い水準で推移しつつ、2013年頃から減少傾向です。しかし、近年の放流尾数は減少していません。つまり、近年の0～1歳の漁獲尾数の減少は、放流由来の加入量よりも天然由来の減少が大きく影響しているといえそうです。1歳魚は主漁期の12～翌4月には0.7～1kg程度になりますので、現場の方々はこのサイズの減少を特に感じているのではないのでしょうか。



近年におけるヒラメの減少は以前の水準に戻っただけなのか、今後も減少傾向が続くのかどうかは、現段階でははっきりとはわかりません。今回のヒラメの場合、親魚となる2、3歳以上の資源が減少している兆候はないことから、加入量の減少は稚仔魚期における生育環境の悪化が理由と考えられますが、その具体的な要因については今後検討していきます。

ただし、水温や潮流等の環境は人の手で変えることは不可能です。いまできることは、従来から取り組んでいる栽培漁業や資源管理の取り組みを継続して、0～1歳魚を次世代に残して、将来の親魚を確保することと言えます。今後も資源状況把握のため、データを取って分析する必要があります。引き続き、市場調査などご協力をお願いいたします。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします



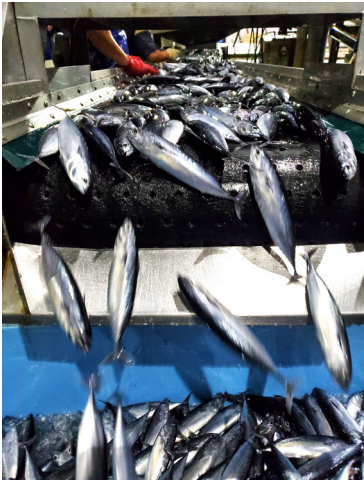
<p>ダイドードリンコ株式会社 首都圏第一営業部 〒2308100265 横浜市港北区新横浜三二一七六 TEL 〇四五・四七一・一五三〇</p>	<p>土木・港湾・浚渫工事 石材採取販売・測量調査 株式会社 鈴木組 代表取締役 脇山 俊 〒250910201 足柄下郡真鶴町真鶴九九五一一 TEL 〇四六五・六八八・五五五五</p>	<p>焼肉食堂 げんこつや ※和牛ブランドカルビ 一、二二〇円 店主 石坂 幸央 〒24010104 横須賀市芦名二二〇一三三 TEL 〇四六・八五七・一五二九 ■定休日：毎週火曜・平日の月曜日</p>	<p>クロレラ工業株式会社 営業本部技術特販部 〒803310056 福岡県筑後市久富二三四三 TEL 〇九四二・五一一・二六一一 FAX 〇九四二・五一一・七二〇三</p>	<p>株式会社リビエラリゾート 代表取締役 小林 昭雄 〒2308100265 三浦市三崎町小網代二二八六 TEL 〇四六・八八二・二二二二</p>
---	--	--	--	---



かながわ漁協探訪

～真鶴町漁業協同組合～

真鶴には魚つき保安林があり、味の良い魚が育つ場所とされています。漁業の種類は定置網・裸潜り・刺し網（イセエビ・ヒラメ等の魚）があります。兼業として遊漁を行う漁業者もいます。定置網は漁協自営の大型定置のほか、個人経営の小型定置があります。漁業者の平均年齢は40代後半と若いですが、70代を超える漁師も多く、人数は減少傾向です。



定置網の水揚げ・選別
(漁協のXより)

水揚げの季節変化

真鶴は水揚げされる魚種が約200種と多く、春はアジ・サバ、5月からはアオリイカ、秋にはカマス、イナダ、ワラサ等が網に入ります。4月に裸潜り漁が解禁されると、アワビやサザエが一斉に獲れ、10月末に禁漁になった後も1月と2月に1週間だけアワビ漁が行われます。刺し網では、8月からイセエビが解禁になり、浜を賑わせます。

真鶴港にある直販所のほか、毎月第1・3土曜日の9時半～朝ドレファーマミ成田店(小田原市)で当日水揚げされた鮮魚の販売を行っています。

漁師さんオススメ!これから旬のお魚と食べ方

いま水揚げが多いのはカンパチとサバ。カンパチはなんといっても刺身がオススメ。サバは煮ても焼いても美味しい。メサバにする時は、長時間塩でめてから酢はお好みで。赤みが残るぐらいが好きなら酢は5時間位。長時間漬けると白っぽくなる。冷凍すると、長期保存も可能に。



朝どれの魚が並ぶ漁協直販所(漁協のXより)



漁協直販所

X(旧ツイッター)で
当日のラインナップ
をチェック!



朝ドレファーマミ

アワビ・トコブシ・サザエの稚貝が有毒プランクトンによって斃死

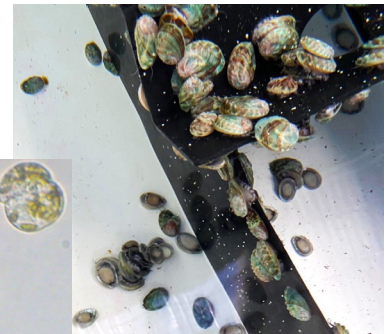
2023年8月28日、飼育池を覗くと、いつもはシェルターの下にいる稚貝がほとんどシェルターの上面に這い上がっている異常な状況があり、一部の貝が斃死していました。水温は26℃と高く、気温は33～34℃の猛暑でした。

調べた結果、カレニア・ミキモトイ(以下カレニア)とシャットネラ属が検出されました。8月17日に実施した水産技術センターの貝毒プランクトン調査の結果では、走水でカレニアが2,500細胞/ml観察されており、8月29日には横浜市漁業協同組合柴支所で325細胞/ml、栽培漁業協会の飼育水の取水口で9.1細胞/ml、シャットネラ属が0.2細胞/ml検出されています。カレニアの注意基準密度が100細胞/ml、警戒基準密度が1,000細胞/ml、シャットネラ属は注意基準密度が1細胞/ml、警戒基準密度が10細胞/mlだそうです。

カレニアは貝に、シャットネラ属は魚に影響を及ぼすそうです。人間に対して毒性はありません。

今回、中間育成中のアワビ・トコブシ稚貝の約4割が、採卵用のアワビ親貝、サザエ親貝の多くが斃死しました。生き残った稚貝は1週間ほどたつと元のシェルター下にいる状態に戻りました。ただ、アワビ稚貝でシェルターから出ず、普通の状態にあった水槽が一つだけありました。その水槽では、エアレーションが細かく、全池に泡が立つ水槽でした。このことから溶存酸素の量を注目しています。著者は1970年に水産試験場に就職して、プランクトンによるアワビ稚貝の斃死を観察した経験は初めてで、多分、神奈川県では最初の記録となります。

これからも、これら有毒プランクトンの出現に注意して、発生した場合の対処法を検討していきます。



カレニア・ミキモトイ

斃死したアワビ稚貝



編集 後記

2023年も温暖化による海洋環境の変化を痛感する年でした。小田和湾に移植したアマモも、秋に魚に食べられ、年末に現地へ行くと地上からは確認できませんでした。そして夏に突発したカレニアによる貝類の斃死。稚貝への被害もさながら、採卵寸前のアワビ親貝へのダメージは大きく、今年の生産も危ぶまれるほどでした。海水温の上昇でプランクトンが影響を受けると、食物連鎖に関わってくる生物全てに影響が出ます。当然、魚類への影響も大きく、釣りをするにも場所と時期が年々変わってきています。2024年はどうなるでしょうか。引き続き、環境の変化への注視が必須です。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

Kitamura

株式会社 北村

〒604-0051
京都市中京区二条油小路町291
TEL 075-221-6695

サントリー ビバレッジ ソリューション 株式会社



IMUSE

プラズマ
乳酸菌